

特集

広げよう!

子どもの居場所

もうすぐ小学校入学の時期です。あなたの住む地域には放課後や週末などに子どもたちが集まり、安心して生き生きと過ごすことのできる場所(子どもの居場所)はありますか。

さまざまな子どもの居場所のうち、地域住民の皆さんなどが主体的に運営する「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」について、運営者や利用者に話を伺いました。一緒に子どもの居場所づくりを考えてみませんか。

放課後子ども教室

「放課後子ども教室」は、公民館や学校の余裕教室などを活用し、地域の大人がボランティアとして参画して、放課後や週末に子どもたちが体験や交流を行う場として開設されたものです。現在、市内に15カ所開設されています。主に地域の人が安全管理員や学習アドバイザーとなって参加し、子どもたちの安全に配慮しながら体験活動や学習活動を指導しています。

瞳の輝く子どもを見ていたい

一宮公民館プレイランドの会

代表 小村 和弘さん(東一宮)



設立のきっかけは?

平成14年、当時の一宮公民館長から「集団で遊ぶ子どもを見掛けなくなってきた。地域として遊ばせてあげる環境

境を作れないだろうか」と一宮小学校のPTA副会長をしていただいたしやほかのスタッフに相談がありました。青年会議所で青少年健全育成事業を企画実行していた経験から、その時のような生き生きとした子どもの姿を自分の暮らす地域で見たいと思いました。そして、その年の2学期から、一宮公民館と隣接する天王公園とを会場に、土曜日に開設することになったのです。現在は、設立時から変わらないスタッフ14人(安全管理員・学習アドバイザー)で、毎日3、4人が順番に開催しています。通常は15〜30人、年4回の特別企画時には50〜70人の子どもが遊んでいます。年齢も園児から中高校生までとさまざまです。

に打つんだよ」と道具の使い方を教えてやります。やってみて面白かったら次に来た時に「あれをしたい」と声が上がります。

継続の秘けつは?

まず、公民館長や公民館利用者の理解があることです。会の運営は「無理はしない」をモットーとし、スタッフの上下関係や細かな決まりは作りません。スタッフそれぞれの得意な分野で遊びのきっかけ作りをしています。開設してから7年がたち、小学生の子どもがいるスタッフは少なくありません。それでも「あれをさせてやりたいな」「これさせてやりたいな」と企画案がどんどん出てきます。瞳を輝かせる子どもを見ることと子どもと一緒に遊ぶのが好きなことも継続の大きな力となります。

子どもたちの様子は?

一度帰宅してから、公民館に来ます。その後は子ども自身が希望する遊びをしています。この会のスローガンは「自分の責任で自由に遊ぶ」ですから、外遊びや手芸、携帯ゲーム、カプラ、宿題など、子どもたちがしたいことをして過ごします。スタッフが指導できないときには、できる人を探して手伝いに来てもらったり、習得してから教えています。

「何をしてもいいよ」と言うと、遊べない子も多いですね。そんな時はスタッフが得意とする物作りや昔遊びなどで、きっかけを作ります。例えば、板や棒の切れ端を持って来て、そばに釘と金槌などを置き「釘はこんなふう

放課後児童クラブ

「放課後児童クラブ」は、共働きや一人親家庭などで昼間保護者がいない子どもの放課後の生活の場です。市内に27カ所開設され、1062人の児童が利用しています。運営は、利用する子どもの保護者が中心となる運営委員会、または社会福祉法人などの非営利団体が実施しています。各児童クラブでは、地域の実情に合わせて、活動計画の策定や指導員の雇用、利用負担金・指導員賃金などの決定、入退会の事務などを行っています。

安全・安心に預けることのできる児童クラブを目指す

津山市児童クラブ連絡協議会

会長 金田 稔久さん(八社)



会の目的は?

児童の健全育成の観点からだけでなく、放課後の安全確保の観点からも放

課後児童クラブの重要性・必要性が高まっていると感じています。

このような状況下、放課後に子どもを安全・安心に預け、保護者が安心して仕事を終えて子どもを迎えに行くことができる児童クラブになるよう、児童クラブを取り巻く課題の解決をするためにこの連絡協議会を組織しています。市内に開設されている27カ所の児童クラブすべてが加入しており、加入率でも機能面でも県下一だと思えます。

どのような課題がありますか?

指導員の確保に大変苦慮しています。また、施設は校内に設置するのが原則ですが、空き教室がない、敷地に法律上の問題で建築できないなどの理由により、民家を借りている児童クラブもあります。また、児童数が少ない児童クラブでは利用者負担金の課題、大規模な児童クラブではクラブの分割の課題などがあります。

今後の取り組みは?

平成21年度中には、新たに2つの児童クラブが開設される予定です。そうすると児童クラブがないのは2校区のみとなり「しあわせ大國つやま」を実感しています。ここまで充実できたのも、市の財政面での支援はもちろんのこと、ソフト面でも後押しがあったからだと感じています。

今後も児童クラブがより充実するように、保護者や指導員の意見を踏まえ、地域の皆さんや市、議会などの理解を

得ながら努力していきます。

子どもたちが安心して通えるように日々努力する

やよいなかよし児童クラブ

指導員 鷹取佳代子さん(糸織町)



児童クラブの様子は?

やよいなかよし児童クラブは弥生小学校内に独立してあります。ここに通う児童は88人。指導員は正規指導員2人・アルバイト5人。午後5時までは指導員全員で、午後5時から6時まで

どんな遊びをしますか?

宿題を終えた子どもたちは興味や関心のある遊びを室内外でします。遊びの種類によっては高学年の子が低学年の子に教えています。指導員は遊びのきっかけ作りとして、季節感のあるものを準備するよう心掛けています。例えば、夏には空のペットボトルで水遊びを、冬には毛糸でマフラー作りなど

工夫していることは?

第二の家庭として、子どもたちが安心して通ってきてくれるよう心掛けています。そのためか子どもたちは「ただいま」と言って帰ってきてくれます。そして学校であったことをいろいろと話してくれます。88人すべての子どもの顔色や表情、様子に気を付け、思いを受け止め、また、成長段階や個性に見合った接し方や言葉掛けをしています。新一年生が入ってきた時は、自分のことがすべてできるわけではないので、一人ひとりに声を掛け、手を掛けます。

また、保護者が安心して働けるようにと、お迎えに来た時には児童クラブであった出来事を話しています。指導員同士は子どもを毎日話し合い、意



◀「ひまわり児童クラブ」普段の様子(東小学校)



◀「元氣ッズひろば」投扇体験(勝北公民館)